

サクラなどに打撃、外来種「クビアカツヤカミキリ」

生息域拡大 学んで防ぐ

明石北高生 高丘東小で授業



特定外来種のクビアカツヤカミキリを探す明石北高校の生物部員と高丘東小学校の児童＝明石市大久保町高丘3

サクラやモモの幹を食い荒らし大きなダメージを与える特定外来種「クビアカツヤカミキリ」の生息域が少しずつ広がっている。石ケ谷公園（明石市大久保町松陰）では昨年が続いて今夏にも成虫が確認された。生息域拡大を抑えようと、クビアカについて学ぶ授業が15日、高丘東小（同市大久保町高丘3）であった。調査を進める明石北高校の生物部員が講師を務め、同小学校3年生と知識を共有した。（有富晴貴）

石ケ谷公園で2年連続成虫確認 児童ら外見や生態学習

クビアカは昨年6月、両校に近い石ケ谷公園で発見されたのが県内初だった。その後、神戸市や芦屋市で見つかった。同公園では今年7月にも成虫が確認された。

2回目となる今回の授業では、クビアカの外見や、幼虫がサクラ、モモなどバラ科の植物を食い荒らすこと、幼虫が出すふんと木くずが混じった「フラス」について復習した。また、クビアカのものとみられるフラスは、石ケ谷墓園など同公園の外でも発見されており、生息域が拡大している可能性が高いことを説明した。

その後、校内のサクラにフラスが

ないか確認。前回の授業で校内のサクラに目印のテープを巻いて番号を振っており、この記録を参考に作業を進めた。フラスは見つからなかったが、樹液を出しているサクラが複数あった。クビアカの成虫は樹液をえさとするため、食害に遭いやすいと考えられるという。

また、テープを巻いたサクラの木の場所を衛星利用測位システム（GPS）で測定。緯度、経度で表し、より管理しやすくした。一連の授業は今回で終了するが、高校生は「これからも学校のサクラを見守ってほしい」と訴えた。

授業を受けた岩崎詩織さん（8）は

7月に石ケ谷公園で発見されたクビアカツヤカミキリ（同公園提供）



「フラスの見分け方が分かったので、よく見てサクラを大切にしたい」。生物部の谷口嘉乃さん（16）は「クビアカはすぐそこまで拡大してきているはず。もし高丘東小にクビアカが来たら、児童にいち早く発見してほしい」と話した。